

# 大分県長期漁海況予報

〔令和6(2024)年1月～6月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部  
879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

Phone 0972-32-2155 Fax. 0972-32-2156 <https://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>

## 海況経過<令和5年7月～令和5年12月>

### ■黒潮

- ・都井岬沖では、7月～10月は概ね離岸傾向、11月～12月は概ね接岸傾向で推移しました。
- ・足摺岬沖では、8月下旬～9月上旬は「接岸」、9月下旬～10月上旬に「かなり離岸」、10月中旬～下旬には「接岸」、11月は「接岸」～「やや離岸」で推移しました。
- ・大蛇行(A型流路)が継続しました。

### ■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、9月を除き「平年並」で推移しました(図1)。9月は「やや高め」でした。

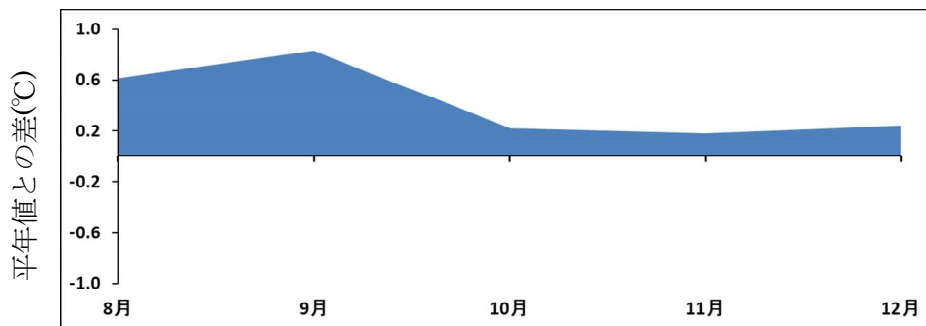


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

### ■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、8月は「低め」、9、10月は「やや低め」、11月は「きわめて低め」、12月は「平年並」と、低め基調で推移しました(図2)。

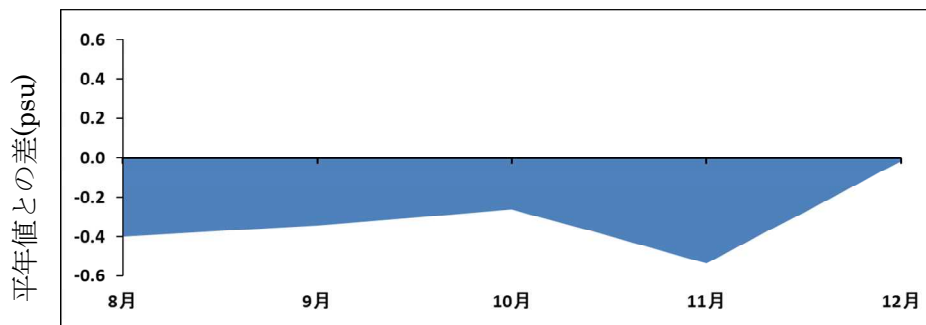


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

## 今後の海況の見通し<令和6年1月～6月>

### ■黒潮

- ・都井岬沖では、1月～3月にかけて離岸傾向で推移し、その後接岸傾向で推移するでしょう。
- ・足摺岬沖では、接岸傾向で推移するものの、一時的に離岸することがあるでしょう。
- ・黒潮はA型基調で推移し、大蛇行が継続する可能性が高いでしょう。

### ■沿岸水温

沿岸水温は「平年並」～「高め」で推移するでしょう。

### ■予測の説明と根拠

- ・黒潮流路予測は、2023年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報(国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所および関係都道府県:2023)を参考にしました。
- ・沿岸水温は、2023年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報と、福岡管区気象台の「九州北部地方3か月予報」(2023年12月19日発表)を参考にしました(沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられているため)。

1月 「低め20%、平年並30%、高め50%」

2月 「低め20%、平年並30%、高め50%」

3月 「低め20%、平年並30%、高め50%」

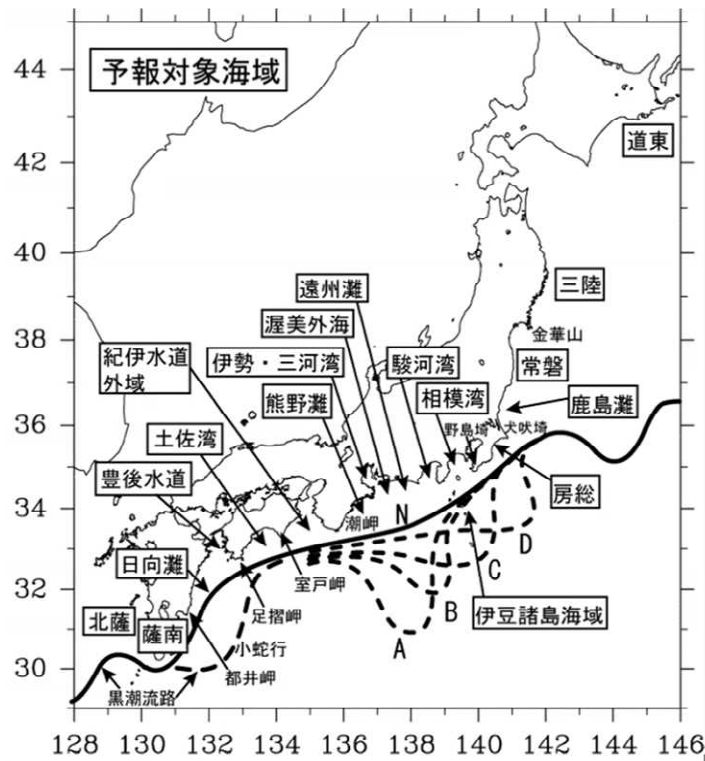


図3 黒潮流型の分類

※上図は太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報  
(水産研究・教育機構プレスリリース資料)より引用

## ■マイワシ

### □2023年7月～11月の漁況経過

2023年7月～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの水揚量は1,197トン(前年同期21トン)で、平年比56%(1986年～2022年の平年値)と、前年を上回り、平年を下回りました。水揚げの主体は被鱗体長<sup>(用語解説①)</sup>7.0cm～18.5cm前後の2023年級群(0歳魚)と2022年級群(1歳魚)でした。

なお、近隣海域<sup>(用語解説②)</sup>では、宮崎県は前年の1,799%、愛媛県は前年の85%の水揚量(各県、7月～11月の前年比)、高知県は110トン(前年水揚げなし)となっています。

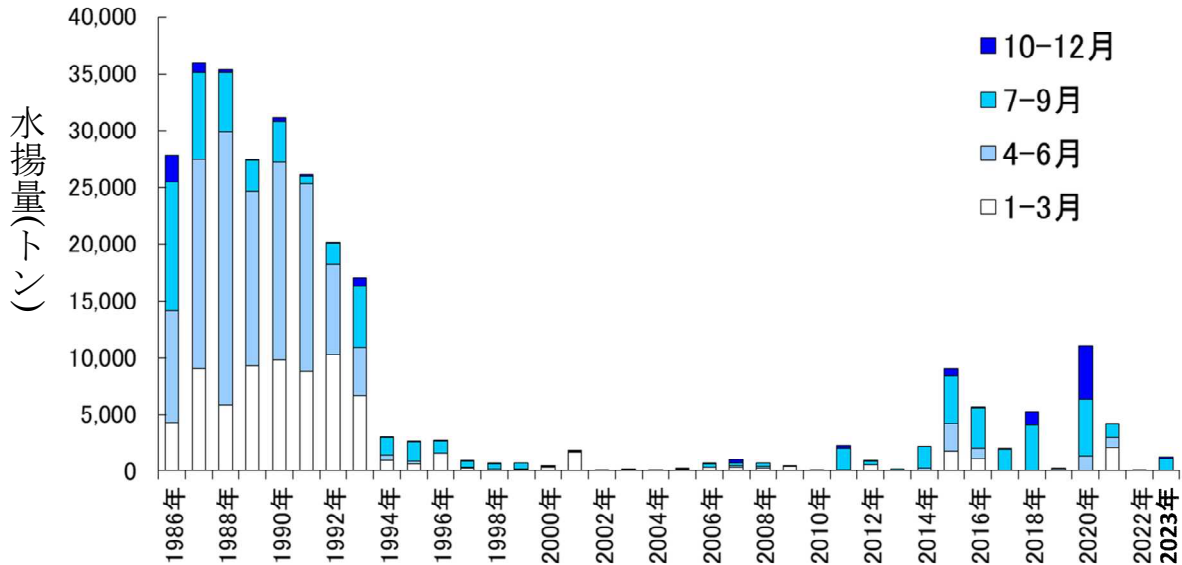


図4 まき網によるマイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

※2023年は11月まで

## 今後の見通し<2024年1月～6月>

### □来遊量

豊後水道南部への来遊量は、前年並～上回るでしょう。(2023年1月～6月:57トン)

### □水揚対象年級群および体長

1月～3月は被鱗体長15cm～20cm前後の2022～2023年級群(1～2歳魚)が主体となり、4月～6月は被鱗体長7cm～12cm前後の2024年級群(0歳魚)主体となるでしょう。

### 【説明】

1月～3月は2023年級群(1歳魚)が水揚げの主体となるでしょう。2023年級群が水揚げの主体であった2023年7月～11月のまき網水揚量は前年を上回りましたが、近隣県における来遊量の見通し(日向灘では前年並、豊後水道南部東側～宿毛湾では前年を下回る)を考慮して、来遊水準は前年並～上回ると予測しました。

## ■カタクチイワシ(成魚)

### □2023年7月～11月の漁況経過

2023年7月～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの水揚量は226トンで、前年比144%、平年比18%(1986年～2022年の平均値)と、前年を上回り、平年を下回りました。水揚げの主体は、被鱗体長7.0cm～14.0cm前後の2023年級群(0歳魚)と2022年級群(1歳魚)でした。

なお、宮崎県では前年の31%、愛媛県では前年の194%、高知県では前年の31%の水揚量となっています(各県、7月～11月の前年比)。

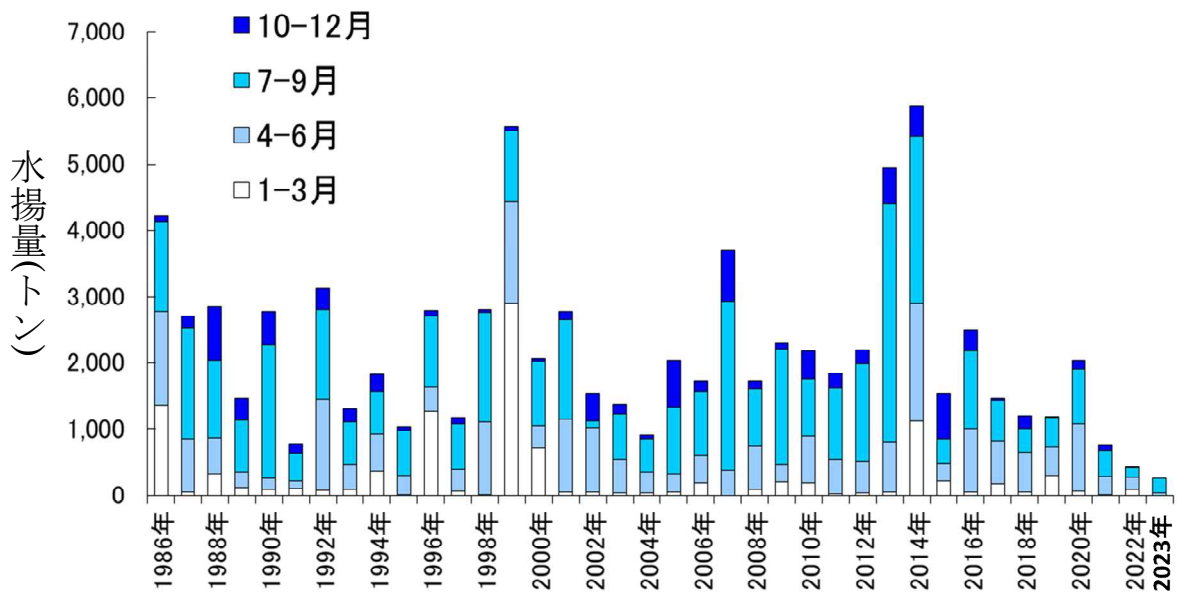


図5 まき網によるカタクチイワシの水揚量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

※2023年は11月まで

## 今後の見通し<2024年1月～6月>

### □来遊量

豊後水道南部への来遊量は、前年を上回るでしょう。(2023年1月～6月:37トン)

### □水揚対象年級群および体長

1月～6月は2023～2024年級群(0～1歳魚)が水揚げの主体となるでしょう。

### 【説明】

2023年7月～11月の水揚げの主体は2023年級群(0歳魚)であり、2024年はこれらの個体が1歳魚となり漁獲されるでしょう。2024年級群(0歳魚)の来遊水準について現段階では不明ですが、2023年7月～11月のまき網水揚量が前年を上回ったことから、来遊水準は前年を上回ると予測しました。

## ■ウルメイワシ

### □2023年7月～11月の漁況経過

2023年7月～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの水揚量は2,363トンで、前年比123%、平年比232%(1986年～2022年の平均値)と、前年・平年を上回りました。水揚げの主体は被鱗体長10.0cm～15.0cm前後の2023年級群(0歳魚)と17.0cm～19.5cm前後の2022年級群(1歳魚)でした。

なお、宮崎県では前年の82%、愛媛県では前年の365%、高知県では前年の124%の水揚量となっています(各県、7月～11月の前年比)。

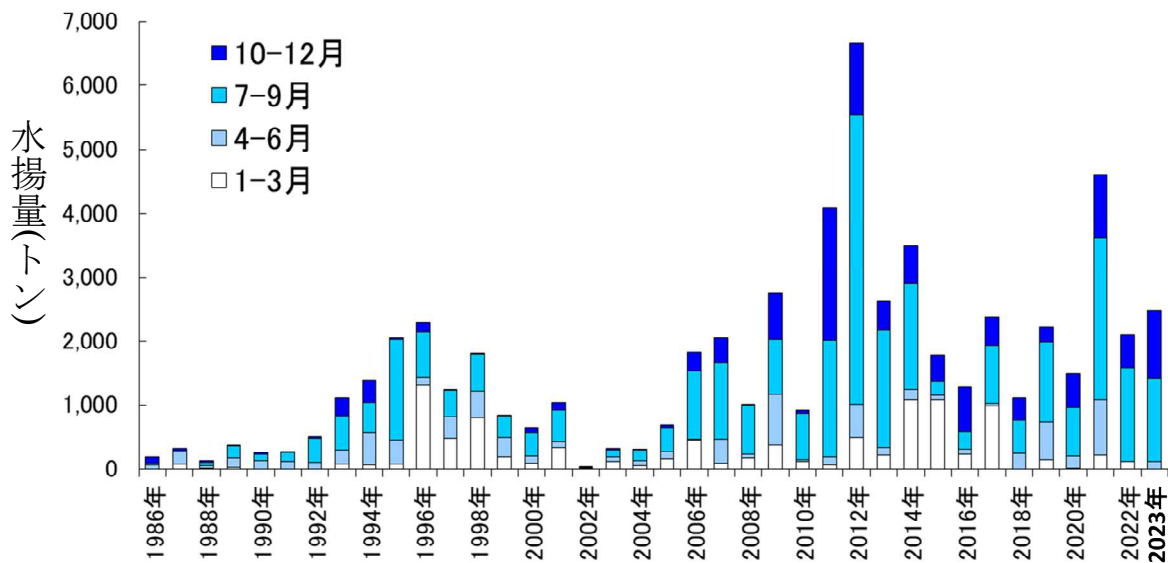


図6 まき網によるウルメイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

※2023年は11月まで

## 今後の見通し<2024年1月～6月>

### □来遊量

豊後水道南部への来遊量は前年を上回るでしょう。(2023年1月～6月:126トン)

### □水揚対象年級群および体長

1月～3月は被鱗体長15.0cm～20.0cm前後の2023年級群(1歳魚)が主体となり、4月～6月は被鱗体長10.0cm前後の2024年級群(0歳魚)が主体となるでしょう。

### 【説明】

2023年7月～11月の水揚げの主体は2023年級群(0歳魚)であり、2024年はこれらの個体が1歳魚となり漁獲されるでしょう。2024年級群(0歳魚)の来遊水準について現段階では不明ですが、2023年7月～11月のまき網水揚量が前年を上回ったことから、来遊水準は前年を上回ると予測しました。

## ■マアジ

### □2023年7月～11月の漁況経過

2023年7月～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの水揚量は144トンで、前年比63%、平年比11%(1986年～2022年の平均値)と前年・平年を下回りました。水揚げの主体は尾叉長<sup>(用語解説③)</sup>8.5cm～24.0cm前後の2023年級群(0歳魚)と2022年級群(1歳魚)でした。

なお、宮崎県では前年の98%、愛媛県では前年の28%、高知県では銘柄「あじ」が前年の59%で、銘柄「ぜんご」が前年の213%の水揚量となっています(各県、7月～11月の前年比)。

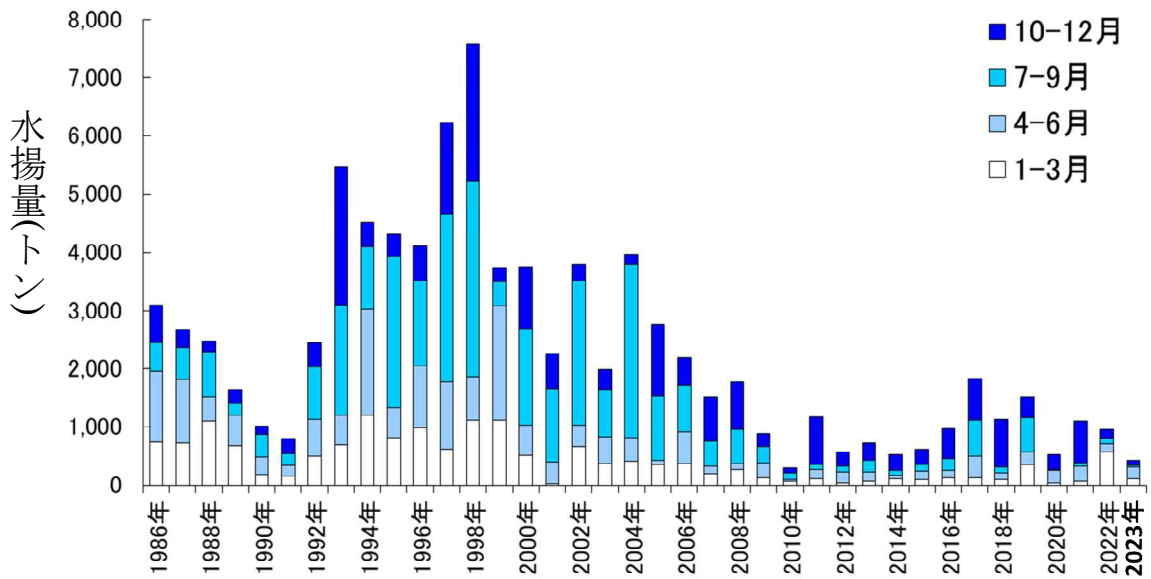


図8 まき網によるマアジの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

※2023年は11月まで

## 今後の見通し<2024年1月～6月>

### □来遊量

豊後水道南部への来遊量は前年を下回るでしょう。(2023年1月～6月:321トン)

### □水揚げ対象年級群及び体長

尾叉長15.0cm前後の2023年級群(1歳魚)が主体となり、20.0cm以上の個体が混じるでしょう。

### 【説明】

2023年7月～11月に水揚げされた2023年級群(0歳魚)が1歳魚となり漁獲されるでしょう。マアジ太平洋系群の資源量は低水準で推移しており、2023年級群が水揚げの主体であった2023年7月～11月のまき網水揚量が前年を下回ったことから、来遊水準は前年を下回ると予測しました。

## ■サバ類

### □2023年7月～11月の漁況経過

2023年7月～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の水揚量は70トンで、前年比33%、平年比3%(1986年～2022年の平均値)と、前年・平年を下回りました。水揚げの主体は、尾叉長15.0cm～30.0cm前後の2022～2023年級群(0～1歳魚)でした。

なお、宮崎県では前年の14%、愛媛県では前年の96%、高知県では前年の51%の水揚量となっています(各県、7～11月の前年比)。

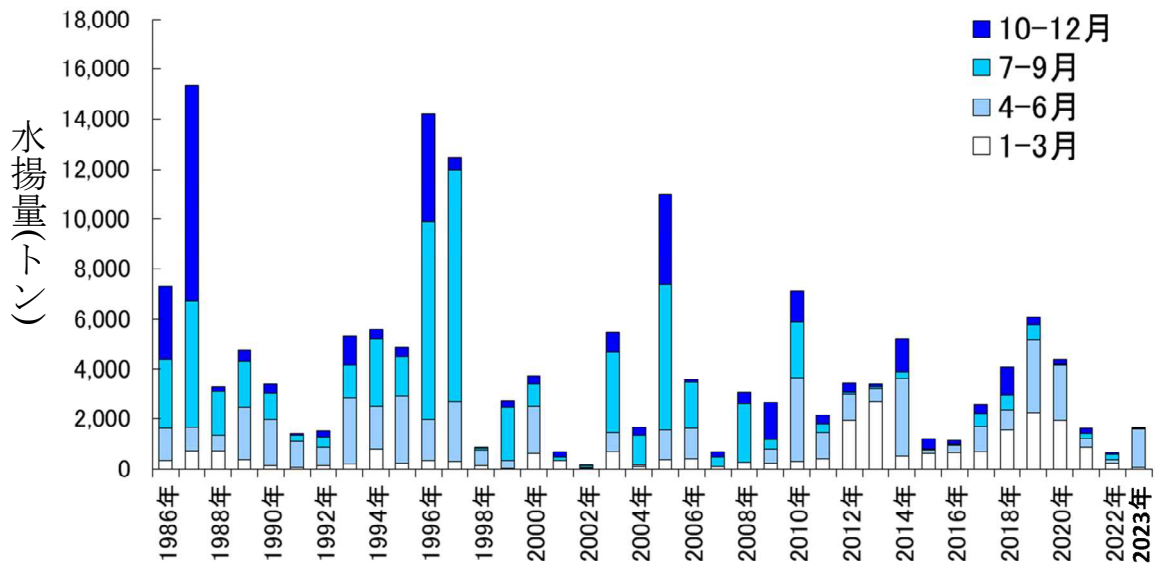


図9 まき網によるサバ類(マサバ・ゴマサバ)水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

※2023年は11月まで

## 今後の見通し<2024年1月～6月>

### □来遊量

豊後水道南部への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2023年1月～6月:1,582トン)

### □水揚対象年級群および体長

1月～3月は尾叉長25.0cm～35.0cm前後のマサバ2022年級群(2歳魚)、2021年級群(3歳)以上が主体となり、4月以降はゴマサバも混獲されるでしょう。

### 【説明】

予測期間中は、尾叉長30cm以上のマサバ2022年級群(2歳)以上が水揚げの主体となり、4月以降はゴマサバも混獲されるでしょう。マサバの本県への来遊は海況条件等の影響で低調で推移する見込みです。2023年4月～5月にはゴマサバ当歳魚がまとまって漁獲されましたが、7月～11月の水揚げ物調査の結果、漁獲の主体はマサバでした。これらを考慮し、サバ類全体としての来遊水準は前年を下回ると予測しました。



## その他

### ■予測の根拠および参考資料

予測は、国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所および関係都道府県による、「2023年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報会議」結果を基に、最新の情報を加味して行っています。

URL: <https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2023/index2.html>

### ■用語解説

- ①被鱗体長：体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ②近隣海域：ここでは3県（宮崎県・愛媛県・高知県）の海域とし、高知県の水揚量の前年比は、宿毛湾における中型まき網によるものとししました。
- ③尾叉長：体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央（くびれている部分）までの直線距離。

### ■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 資源増殖チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6  
電話:0972-32-2155  
FAX:0972-32-2156